

形成外科分野における ロボット手術の現状と展望

企画にあたって

ロボット手術は da Vinci (Intuitive Surgical 社) を主として現在多くの分野で行われるようになってきています。泌尿器科以降, 呼吸器外科, 婦人科, 消化器外科, 心臓血管外科, 耳鼻咽喉科など多くの分野で保険収載がされるようになりました。しかし, 形成外科分野においては諸外国での報告が見られるようになってはきてはいるものの, 本邦においては実施された報告は現在まで認められておりません。ロボットを使用するための certification が形成外科領域の手術ではとれておらず, 臨床で使用するためのハードルが高いのも問題となっております。本年 4 月にはマイクロロボットの Symani Surgical System (MMI 社) が FDA の認可を取得しており, 世界的に形成外科領域でもロボット手術が広まり, 本邦でも導入へ機運が高まってきました。日本形成外科学会では 2023 年よりロボット手術検討委員会 (上村哲司委員長) を立ち上げ, 保険収載への道筋を議論しているところです。

保険収載にあたってはまずは内視鏡手術の保険収載が必要であるとの外保連 (外科系学会社会保険委員会連合) での議論もあるため, 形成外科での内視鏡手術もあわせて検討していく必要があります。実際のトレーニングも委員会メンバーを中心として行われており, 今後ロボット手術を広めていくためにどのようなべきななどの課題もあります。また da Vinci 以外にも国産ロボット hinotori (Medicaroid 社) も上梓されており国内でも開発が進んでおります。

本特集では, 委員会メンバーを中心として, 形成外科領域における海外のロボット手術の現状, 本邦における形成外科分野の状況や今後の展望についてご執筆いただきました。

編集責任者

筑波大学医学医療系形成外科 関堂 充